ミツユビカモメとオオミズナギドリの 大量斃死と渡りに対する考察

風 間 辰 夫

Summary

On the mass destruction of *Rissa tridactyla* and *Calonectris leucomelas* and their migration at Kashiwazaki, Niigata Prefecture

Tatsuo Kazama

Kashiwazaki coast on Japan Sea side in Niigata Prefecture is known as a place where sea birds (also fishes and turtles) are washed ashore and land bird migrants are disturbed. This is due to the particular position of this town, with Sado I. at 60 km offshore and surrounded by mountains behind. In March 1965 about 500 *Rissa tridactyla* were seen from the shore and 150 (or more) dead birds (of which 80% were young) were collected during 23-31 March by 5 persons and the author examined 12♀♀ 4♂♂, were found during March 1 unsexed. Sixteen *Calonectris leucomelas*, 12♀♀ 4♂♂, were found during March and April 1965 and on each in 1962 and 1964. This species is observed migrating offshore during towards north in this season. Dead birds are found after strong weather and have empty stomachs and their feathers are often spoiled by ship oil. Notes on local weather conditions are given.

ま え が き

1958年4月から現在まで柏崎市と刈羽郡で、斃死鳥の調査をしているが、すでに拾得した死体は300個体余に及んでおり、冬鳥を中心にした海鳥が大部分である。

柏崎海岸は新潟県のほぼ中央部に位置して、全長29.4 km、対岸の佐渡ヶ島とは60 kmを隔だて、背後には米山(993 m)、黒姫山(889 m)、八石山(517 m)があり自然の環境にはめぐまれている。またこの地域は植物、昆虫類の種類も量も県内では豊富で、珍しい種類も発見されている。鳥類についても、多く

の渡り鳥が、柏崎、刈羽地方を通過するものと推定される。例えば、ウミスズメ科の8種類、シギ類の15種類、その他迷鳥としてはシロハラミズナギドリ、ヤツガシラ(千羽元一による)、オオヒバリ、チョウセンオオタカ(岡董高による)、ツシマヤマガラ、マキノセンニュウ等を確認している。

斃死鳥が漂着する場所は裏浜から悪田までの間約5kmと、宮川、荒浜の海岸のごく一部で、他の海岸ではほとんど発見されていない。

1965年の1月～4月には従来にみられない多数の斃死体が発見されたので、それについて報告する。

拾得した斃死鳥

(1) ミツユビカモメ *Rissa tridactyla pollicaris*

この種は主として太平洋側に、多くは冬鳥として渡来するという ことであり、新潟県下では1961に♀1羽が記録されているだけだが、その後著者の調査によって、柏崎裏浜海岸へ打上げられた斃死体は(両翼と胸部のみのものだけのもを集め数えた)次のとおり多数の個体に及んでいる。

年 月 日	老幼	性	備考
1962, 2, 16	幼	性不明	
1965, 3, 23	成	♂	(Fig. 1)
" "	幼	♀	
" "	幼	♀	
" "	幼	♀	
" "	幼	♀	
" "	幼	♀	
1965, 3, 26	成	♀	(Fig. 2)
" "	幼	♂	
" "	幼	♀	
" "	幼	♂	
" "	幼	♀	
1965, 3, 28	幼	♀	(Fig. 3)
" "	幼	♀	
" "	幼	♀	
" "	幼	♂	
" "	幼	♀

Fig. 1. *Rissa tridactyla* ♂ ad. Fig. 2. *Rissa tridactyla* ♀ ad. Fig. 3. *Rissa tridactyla* juv.

1965年度の場合には、斃死体は柏崎少年愛鳥クラブ員5人が、3月23日から3月31日までに拾得したもので約150体で、その後も、数多く拾得して来た。したがって斃死体は200羽はあったと推量される。このころ柏崎裏浜海岸附近への飛来数は約500羽であり、そのうちの約80%は幼鳥と認められた（その他ほぼ完全ではあるが、性不明8，雄2がある）。

(2) オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas*

この種は柏崎と佐渡の間の海上を例年2月末頃から4月に100羽～300羽の群が北上しているのを観察している（1964年2月16日裏浜，約100羽，1965年3月20日裏浜，約150羽，などの観察がある）。柏崎，刈羽の殆どどの小学校にこの種の標本があり（製作者は全部カモメとしている）調査した結果昭和年間に寄附されたものであることが判明した。柏崎海岸を渡りのさい通過するのは，突発的ではないことが明らかである。拾得したものは次のと

おりである。

年 月 日	老幼	性	備考
1962, 3, 18	成	♀	(Fig. 4)
1964, 3, 4	成	♀	
1965, 3, 21	成	♀	
1965, 4, 2	成	♀	
1965, 4, 6	成	♀	
1965, 4, 12	成	♂	
" "	成	♂	
" "	成	♂	(Fig. 5)
" "	成	♀	
" "	成	♀	
" "	成	♀	
" "	成	♀	
" "	成	♀	
" "	成	♀	
1965, 4, 25	成	♂	

斃死鳥体の検討結果

拾得鳥の80%は千羽元一氏に解剖をお願いした。同氏によれば、餓死が主因とのことであるが、残り20%を筆者が解剖してみると同様、餓死であることが判明した。

餓死の原因は、風雪が強く、風速 15 m/sec. 超えると鳥類は思うように飛べ

Fig. 4. *Calonectris leucomelas* ♀ ad.

ず、写真 (Fig. 6) のように海岸附近のものは、かろうじて何かを食べているが、海上の個体は風のために海岸えよりつくことが出来ず、餌を求めて海上をさまよい疲労のため落鳥するものと思われる。総数 300 個体を超えと思われるミツユビカモメが、柏崎海上附近で落鳥したことを考えてみれば、この地域

Fig. 5. *Rissa tridactyla* and *Calonectris leucomelas*.

は気象条件が急変するような渡り鳥にとっては不利な状況にあるのではないかと思う。拾得した鳥の死体の解剖結果から次のようなことが解った。

- (1) 体が非常にやせている。
- (2) 重油が附着している（船から流す重油）。
- (3) 砂が多く附着している（落鳥後波にもまれたた

めと思われる）。

- (4) 腐敗度は個体によって差が多い（強風でないと海岸へ漂着しないので海水中に浸漬している時間的のずれが生ずるためと思う）。
- (5) 筋肉に塩分が浸透していない（海水に浸漬していた時間が短かいためで、

Fig. 6. 強風と高潮により、海岸へ避難しているミツユビカモメの群
A keim of *Rissa trydactyla* refuge to coast for wind-storm (Kashiwazaki coast on Japan Sea side in Niigata Pref.)

柏崎近海で落鳥たといえる)。

- (6) 内臓については殆んど損傷がない。
- (7) 外傷はあるが、生活反応が認められないので落鳥したあと、漂流物と衝突して出来たものと思う。

気象と海況から見た考察

新潟県下で最も気象の変化の激しいのは柏崎附近及び同海上であると昔からいい伝えられており、冬期間(11月～翌年3月まで)強風波浪注意(風雪も含む)報は新潟気象台発表によれば25回(1964年11月～1965年3月)であったが、柏崎ではこれ以上すなわち、3日に1回のわりあいで、風雪波浪がやって来る。鳥が落鳥するのは、北、ないし北西の強風の時であると思う。その証拠として筆者の調査した範囲内(7年間)では北西の風(風速 15 m/sec 以上)の日でなければほとんど漂着物を拾得することは出来ないことから見てわかる。例えば1965年4月10日に新潟気象台の発表によれば、強風、波浪注意報、北西の風強く海上では 15 m/sec 以上、4月11日までつづくとなり、その後日4月14日にオオミズナギドリ10羽、ミツユビカモメ2羽の拾得をしている。またこの海岸約 2.5 km は、鳥類死体の漂着があるだけではなく、人間の溺死体も漂着する(柏崎警察署による)。さらに、材木、鳥類、亀類、アザラシ、とくに過去7年間では亀類が多い。アカウミガメなど10体、またニホンザルが1頭ある。漂着については次のことがいえると思う。

- (1) 風は北西の風か、北の風であるが、北西の風 15 m/sec 以上の場合
- (2) 海岸線の構造からくる。
- (3) 鯨波、青梅川、東三輪海岸は断崖である。

ま と め

今回の落鳥漂着鳥死体の調査から、オオミズナギドリは、北上して繁殖地へ向う途中のもので、移動時期が、2月～4月であると想像できる。ミツユビカモメはこれまで飛来が確認されていないのは、海上生活を主とするため陸地に近接することが少なかったためであろう。柏崎海上を通過する鳥類(海鳥)のうち、冬鳥は11月～翌年4月頃まで滞在しているものと思うし、漂鳥は、1月～4月の間に移動するものと思われる。また雌、雄を比較した場合オオミズナギドリは、雌12羽、雄4羽、ミツユビカモメは雌12羽、雄4羽のように、雌が多い。また陸鳥での場合はこれと逆に雄の斃死が多いのである。これは、季節風に直面するのが、雌雄いづれかの群であると考えられないだろうか。従って渡りのさいは、雌は雌、雄は雄で集団を組んでいるように推理される。ミツユ

ピカモメでは、成鳥がわずか2羽であり、斃死体がほとんど幼鳥であった点からも、年齢性別によって集団して、渡りをする可能性が考えられる。

以上この報告作製に際して、千羽元一、千羽普示両氏の絶大なる御支援を得たので、ここに厚く感謝の意を表する。

~~~~~

東京都内ならびに近県で拾得された ツルクイナ *Gallicrex cinerea*

1966年10月から11月の間に東京都内と近県でツルクイナが拾得された。珍しい現象なので表示して報告しておく。

No.	性	年 令	拾得日	拾 得 場 所	備 考
1	?	?	10—5	?	上野動物園に収容(亡死)
2	♀	幼鳥	10—13	目黒区	死体で収容
3	♀	"	10—14	品川区	生体(飼育中)
4	♂	成鳥	10—15	大田区	" (")
5	?	?	10—16	?	井の頭公園(死体)
6	♀	成鳥	10—17	中央区	死体で収容
7	♀	幼鳥?	10—18	千代田区	"
8	?	?	10—18	埼玉県戸田市	上野動物園で飼育中
9	♀	成鳥	10—18	品川区	収容後死亡
10	♂	"	10—18	中央区	死体で収容
11	?	?	10—18	?	上野動物園で飼育中
12	?	幼鳥	10—22	板橋区	"
13	♀?	"	11—4	?	井の頭公園で飼育中
14	?	?	11—16	世田谷区	放鳥

備 考

- (i) 表の中で飼育所の明示していないのは林業試験場で飼育している。
- (ii) 死体で収容したものうち、牧業試験場で受納したものは標本として保存してある。
- (iii) 世田ヶ谷区で放鳥したのは、野鳥の会会員の原喜久雄氏が確認している。
- (iv) 捕獲後飼育しているものは、東京都の飼育許可の認可を得ている。
- (v) 季節による体羽毛色その他の観察が終了した後は、適当な時期に放鳥する予定である。(池田真次郎)